

AMDAの活動 写真展開き支援

伊那の若林さん

震の被災地に飛び出すAMDAの医師たちの姿をテレビで見ても、頼もしく思えた。ところが国内政治の紛糾にかき消されてか、続報にはあまり接しなかった。

護師が被災地に向かい、治療に当たっていた。AMDA本部とやり取りし、被災状況や治療光景の写真、パネル30枚を借りた。加えて、アンデスの山岳写真を撮ってきた地元写真家で友人の中山秀幸さん(46)の協力で、世界遺産の「空中都市」マチュピチュなどの写真も出展し、地震との明暗を見てもらう。

500人を超す。発生直後なら救える命もあったはずだが、日本政府は救助隊など人の派遣はしないで、物資と資金だけ供与した。「事情があったのだろうが、それでよかったのか。AMDAの頼もしさが一層際立った」と若林さんは語る。

写真展は7日までで、無料。AMDAへの入会とカンパを呼びかける。

(田中洋一)

大災害の発生直後にボランティア医師や看護師を派遣している国際医療NGOのAMDA(本部・岡山市)を支援する写真展が、4日から伊那市立伊那図書館で開催される。8月15日のペルー地震を機にAMDAの活動を知った伊那国際交流協会理事長で喫茶店主の若林敏明さん(52)が「離れた地でもやれることはいか」と考えついた。

若林さんは、ペルー地



ペルー地震の写真を展示する若林敏明さん＝伊那市立伊那図書館で